

軒下に広がるまち

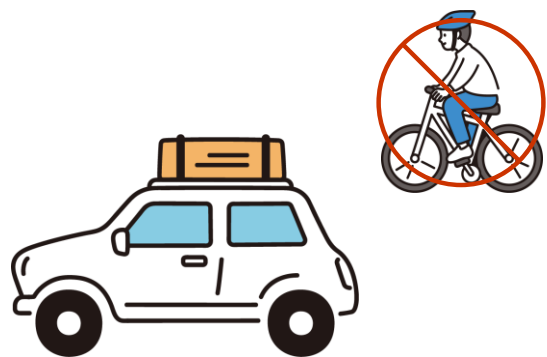
京都の町並みは、軒の高さが揃った京町家が連なり、軒先での高い交流によって独自の魅力を築いてきた。しかし、空き家の増加や観光都市化、自動車優先の道路環境により、その活気が失われつつある。

本提案では、軒下空間を大胆に再編し、交流と賑わいを取り戻す町並みを創造する。建物の一部を開放し、軒下を広げることで、歩行者が滞在できる半屋外空間を形成。解体と再生による新たな軒下が、人と都市のつながりを再構築する。



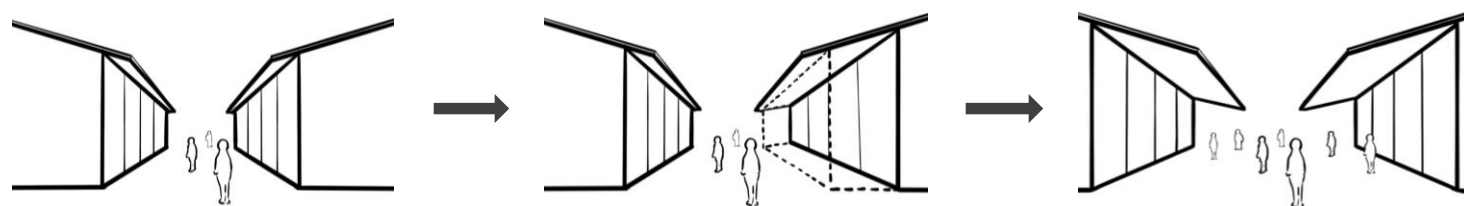
1. 観光客中心の都市化

京都市では、観光産業の発達と共に観光客中心の都市化が進んでいる。その結果、地元住民の生活空間が縮小している。また、自動車優先の道路環境により、自転車や歩行者の居場所や軒先での活気が失われつつある。



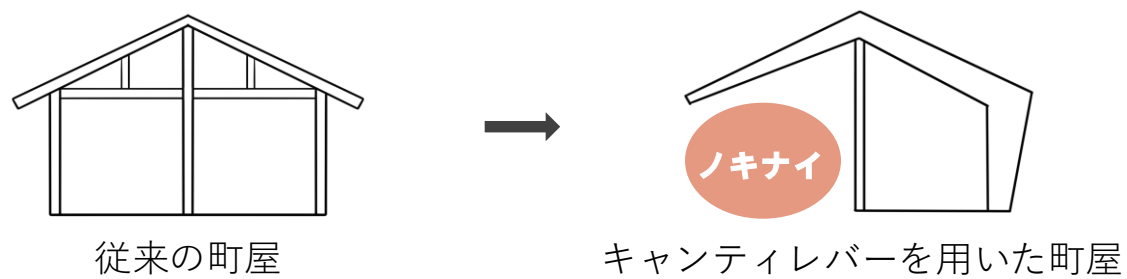
2. 軒下空間の再編

軒下空間の拡大する事で、通路と半屋外空間が、地元住民と観光客の新たな交流と日常が生まれる。京都市における空き家問題は細街路が多く存在する地区で深刻であり、そうした空き家エリアの建築に軒下空間の再編を行う。



3. 「ノキナイ」

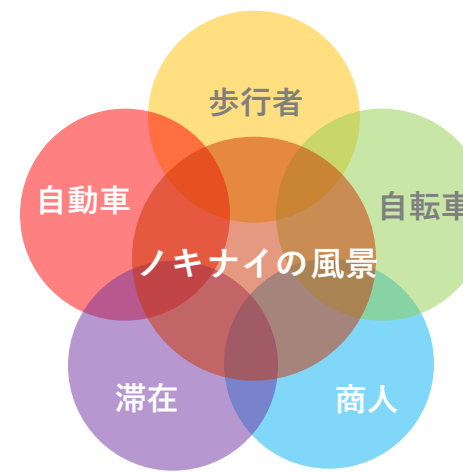
キャンティレバーを用いることで、町家の半分が軒となる。その下の部分には、外と内が融合した新たな空間である「ノキナイ」が生まれ、軒下の開放感と屋内の快適性が一体となった、有機的空間を創出する。



4. ノキナイ×道路

ノキナイによって歩行者の居場所が確保される。その結果、細街路は自動車・歩行者・自転車など全てを許容する豊かな広場へと変化する。

多様な目的と手段で人々は居合わせ、新しいコミュニティと日常を生み出す。



模型写真 I: 建築



模型写真 II: まち並み

